

古河電工における環境問題への取り組みについて



常務取締役 研究開発本部長

大久保 勝彦

大きな経済成長と技術発展を遂げた20世紀も、終盤にきて国内経済不況と環境汚染が深刻化し、先行きへの不安感、不透明感を与えています。経済の建て直しと環境保全が21世紀に向けて解決すべき最大の課題といえるでしょう。新世紀は経済のグローバル化とメガコンペティションが本格化します。ますます企業間競争が激しくなる一方で、分野ごとの協業による環境問題解決が行われるようになっていくと考えます。当社は情報通信を中心とする新技術開発により事業創出を図り経済の活性化に一層貢献するとともに、環境保全のための技術開発を鋭意進める所存です。

地球温暖化対策京都議定書(COP3)で日本はCO₂を90年比で6%削減することを約束し、法的にも容器包装リサイクル法や家電リサイクル法を制定する等整備を進めています。当社は、「21世紀は環境の世紀」を認識し、「企業活動のあらゆる面で環境保全に配慮して行動し、持続可能な発展のできる社会の実現に貢献する」ことを基本理念として行動してまいります。また、地球温暖化、オゾン層の破壊、ダイオキシン、環境ホルモン等の解決に少しでも貢献できるよう、全社組織として「環境調和製品開発委員会」と「中央環境管理委員会」を設置して、環境保全活動を推進しています。

当社は情報通信、電力エネルギー、エレクトロニクス、自動車等の事業分野へ電線・ケーブルをはじめプラスチックや金属素材、光部品、機器を提供するメーカーです。環境に無害な製品、環境負荷のより少ない製品を「環境調和製品」と名付け、総合メーカーとしての幅広い技術を活かして率先して開発し、お客様にソリューションを提供することをポリシーとしています。またISO 14001の認証は既に千葉・三重の両事業所で取得しています。

今回、私たちの環境問題への取り組み状況をご理解いただくため「環境小特集号」を発行することになりました。代表的環境調和製品や環境保全活動を紙面の許す範囲でご紹介しています。ご参考にしていただければ幸いです。